

NEWSLETTER

No. 53

7 January 2013

・2012年地理学教室の行事記録	・・・1
・第12回地理ワークショップの開催	・・・2
・2012年度地理実習の記録	・・・3
・国土館大学地理学会開催報告	・・・7
・卒業論文公開口頭試験について	・・・10
・2012年度卒業論文公開口頭試験日程	・・・11
・国土館大学地理学会費の納入について	・・・14

【2012年地理学教室の行事記録】

1月 5日	世田谷の歴史地理巡検（岡島）
1月 13日	築地市場巡検（宮地）
2月 6日～ 8日	2011年度卒業論文公開口頭試験
2月 14日～ 16日	国土館大学地理学会巡検（岐阜県高山市・白川村ほか：宮地・加藤）
2月 18日～ 19日	福島県農村実習（宮地）
3月 19日	学位記授与式
5月 3日～ 4日	福島県農村実習（宮地）
5月 14日～ 15日	地理学野外実習 A（1年生実習，川崎市麻生区黒川地区：専任教員全員）
6月 2日	野外生物観察会（生田緑地：磯谷）
6月 9日	国土館大学地理学会（10号館 10329 教室） <総会> <講演会> 長沼佐枝先生（本学非常勤講師） 「人口高齢化にともなう住宅地空間の変質と維持」 <懇親会> 1号館地下1階 Lita
6月 15日	築地市場巡検（宮地）
6月 29日	9月卒業論文公開口頭試験
7月 31日～8月 1日	第12回社会科教員のための地理ワークショップ（10号館 10217 教室） <テーマ> 「アジアの地域区分を考える」 （内田，磯谷，宮地，岡島，加藤）参加者 31名
8月 2日～ 4日	学外実習（群馬県川場村：宮地）
9月 7日～ 9日	国土館大学地理学会巡検（秋田県大仙市・鹿角市：内田・磯谷）
9月 7日～ 18日	長谷川ゼミ学外実習（沖縄県石垣市：長谷川）
10月 3日～ 4日	地理学野外実習 B（2年生実習）
10月 22日～ 25日	地理学野外実習 C（3年生実習）
12月 22日	国土館大学地理学会（10号館 10329 教室） <研究発表会> 正田一真・後野寛子・渡邊 智，丸田洋樹， 高橋幸平，川村尚子，浪床裕貴，添野真広，岩間太一 <講演会> 三浦 英樹先生（本学非常勤講師） 「極地のフィールドワーカー—第四紀の南極氷床変動の謎を解く—」 <懇親会> 1号館1階学生ホール

【第12回 社会科教員のための地理ワークショップの開催】

「アジアの地域区分を考える」

国士舘大学地理・環境専攻では、大学の研究成果や教育の成果を社会・教育界へ還元するという趣旨から、2001年度より中・高の社会科教員の先生方を対象とした「地理ワークショップ」を開催してきました。12回目にあたる今年度は、7月31日と8月1日の2日間にわたり、「アジアの地域区分を考える」というタイトルで31名の先生方が集う地理ワークショップが開催されました。

「アジアの地域区分を考える」は、内田順文教授の企画によるものです。内田先生がまとめた企画書から引用して、ねらいを説明すると次のようになります。

『大陸規模の地誌のなかで、アジアは最大の面積と人口を持ち、多様な地域を抱えているため、中学・高校の地理教科書では便宜的に東アジア・東南アジア・南アジア・中央アジア・西アジアなどに分けて記載されることが多い、唯一の大陸です。しかし、これらアジア内部の地域区分の根拠には曖昧な点や矛盾する点も多く、その妥当性には若干の疑問があるようです。そこで今回のワークショップでは、外国地誌のうち最大の単元であるアジア地誌を取りあげ、アジアの地域区分に関する基本的な知識と情報、アジアを小地域に分けて学習することのメリットとデメリット、および現行の地域区分から派生する問題点などを紹介したいと考えます。こうした問題提起を受けて、参加される先生方がたにも「アジア地誌の授業を創るうえで、アジアをどう区分して考えるべきか、各地域をどう関連づけてアジア地誌の全体像を構成すべきなのか？」などについて積極的に討論に参加していただき、授業創りのための魅力的な材料を提供できるようなワークショップにしたいと考えています。』

このようなコンセプトで行われたワークショップは、以下に示す6つの講義（カッコ内は担当者名）と総合討論で大いに盛り上がりました。「来年も楽しみにしています」との参加者の声援を受けて、来年の企画担当者の産みの苦しみがそろそろ始まります。

1. アジアの地域区分の歴史と問題点（内田順文）
2. 自然地理的指標からみたアジアの地域区分（磯谷達宏）
3. 「アジア」の農業はどのように取り扱われているか（宮地忠幸）
4. 陸上交通路からみたアジア地域（岡島 建）
5. 経済圏からみたアジア地域（加藤幸治）
6. アジアの民族と文化の分布からみた地域区分の妥当性（内田順文）



写真1. 1日目の内田先生の講義



写真2. 2日目の午後はグループに分かれての討論
(2012年度幹事：長谷川 均)

【2012 年度地理実習の記録】

地理学野外実習 A（1 年生対象）：5 月 14 日（月）～5 月 15 日（火）実施

◎野口・長谷川・内田・岡島・磯谷・加藤・宮地

実 施 地：川崎市麻生区黒川地区

参加学生数：73 名（男子 65 名，女子 8 名）

テ ー マ：丘陵地の自然環境と人間生活 ―映画「ラストサムライ」の間違いを読み解く―

目 的：多摩地区における丘陵地の土地利用に関する調査を行い，地形と土地利用の関係，都市化・宅地化の進行の特徴やその要因等について考察することを通じて，地理調査や地理的思考法の基本を体得する。

課 題：図表を含めて 400 字詰め原稿 10 枚以上相当のレポート。

提出日時：7 月 17 日（火）5 限「地域調査法」の授業開始時



写真 1 新たな実習地にて土地利用調査を実施



写真 2 多摩丘陵の雑木林で植生の観察

地理学野外実習 B（2 年生対象）：10 月 3 日（水）～10 月 4 日（木）実施

◎野口

実 施 地：長野県霧ヶ峰高原

参加学生数：14 名（男子 8 名，女子 6 名）

テ ー マ：霧ヶ峰高原を例に，本州亜高山帯における自然環境を理解する

内 容：事前課題，現地での観察，霧ヶ峰自然保護センター見学

課 題：次の点についてレポートにまとめる。

- 1) 霧ヶ峰高原の気候学的位置づけと生態系
- 2) 霧ヶ峰高原の地質学的・地形学的位置づけ
- 3) 霧ヶ峰と人的関わり（縄文時代から今日まで）



野口班：霧ヶ峰の尾根筋に張られたシカ食害防止用ネットと学生たち

◎長谷川

実 施 地：神奈川県三浦市・横須賀市周辺

参加学生数：6 名（男子 5 名，女子 1 名）

テ ー マ：さまざまな海岸地形や地質を観察しよう

内 容：三浦半島，江ノ島において砂浜海岸，岩石海岸を観察し，また露頭調査の方法を学習した。

課 題：ルートに沿った観察結果のまとめを 15 枚程度にまとめる。



長谷川班：三浦海岸での海岸地形の観察

◎内田

実施地：山梨県北杜市・長野県小諸市

参加学生数：7名（男子5名，女子2名）

テーマ：観光調査と観光地に与えられた意味の解説

内容：①高原観光地「清里」のブランドイメージがどのように変化し、観光地としての清里がどのように変容したのかについて調査する。
②歴史観光地「小諸」の景観とイメージを鑑賞し、観光地としての小諸の現状を記述する。
③「清里」および「小諸」のイメージが、観光資源としてどのように利用されているかを確かめこれらの観光地に与えられた意味を記号論的視点から解説し、その風景がどのような意味を持つのかについて考察する。

課題：レポート2本：①「観光地清里における観光施設の変化とその考察」②「観光地の記号としての「清里」および「小諸」ブランド」



内田班：小諸城跡懐古園にて

◎岡島

実施地：栃木県栃木市・日光市今市

参加学生数：参加学生数：9名（男子7名，女子2名）

テーマ：近世都市栃木の近現代における変遷

内容：栃木市街地における現地調査，岡田記念館・日光杉並木街道等の見学

課題：標記のテーマについて所定の分量のレポートを作成する。なお，夏休みに事前学習を行っている。



岡島班：巴波川水運「平柳河岸」跡を見学

◎磯谷

実施地：長野県蓼科方面

参加学生数：11名（男子9名，女子2名）

テーマ：山地帯～亜高山帯の植生

内容：茅野市内から縞枯山にかけての地域でみられる植生について，組成・構造・動態・立地などの視点から調査した。

課題：指示された項目にしたがって，この地域の植生について図表を含めてA4版20枚程度のレポートにまとめる。



磯谷班：縞枯山でシマガレ現象を観察

◎加藤

実施地：東京都品川区

参加学生数：12名（男子7名，女子5名）

テーマ：品川区における「工場跡地」の利用
—品川の地誌，とくに産業構造転換と地域変化について—

内容：品川区内に15年前（1995年初）に立地していた工場（20人以上）の「その後」を調べる。現存する工場とその特徴（業種・立地の特徴など），跡地利用の状況（転換状況・土地所有など）やその



加藤班：品川神社富士塚にて

特徴（業種・立地の特徴など）を調査し、都市の土地利用変化について考察する。それを通じて、経済地理学的な見方・考え方・調査法の基礎を学ぶ。

課題：調査結果に関する図を作成し、調査結果にもとづいた内容についてレポートする。

◎宮地

実施地：群馬県川場村

参加学生数：12名（男子12名）

テーマ：農村における地域資源を活用した特産品づくり

内容：農村振興策の一つとして位置づけられる特産品開発の実態を調査した。とくに、近年の川場村で取り込まれているリンゴやブルーベリーなどの果実

を使った特産品開発（ジュース、ドレッシング、菓子類）の実態を、村役場、農業生産者、加工品製造業者、地元の直売店等でヒアリング調査した。

課題：現地での調査結果を基に、図表を含めA4版12枚以上のレポートにまとめる。



宮地班：ブルーベリー生産農家にて経営内容について聞き取り中

地理学野外実習C（3年生対象）：10月22日（月）～25日（木）実施

◎野口

実施地：群馬県前橋市・沼田市

参加学生数：9名（男子8名，女子1名）

テーマ：関東地方内陸部の気候環境

内容：①前橋市における気候要素の諸特性について（永年変化のグラフ化と現地での説明）

②前橋地方気象台の役割と観測露場について（見学と説明）

③沼田市のヒートアイランド現象について（観測と作図）

④片品川横断面の気温分布について（観測と作図）

課題：1) 事前の課題

①群馬県の気候環境について調べる。

②指定論文3編を読む。

③前橋地方気象台のデータ（観測開始からの月別値）を用いて、折れ線グラフを作成し、疑問点を挙げる。

2) レポートの作成

各自でテーマを設定して書く。



野口班：沼田市広域消防署にあるアメダス地点

◎長谷川

実施地：福島県南会津町周辺

参加学生数：5名（男子4名，女子1名）

テーマ：南会津町周辺を自然地理学的視点から分析する

内容：①段丘地形（水無川，加藤谷川の地形と段丘堆積物の観察，記載）

②リモートセンシング（土地被覆調査と分光反射の測定）



長谷川班：段丘堆積物の調査

③スキー場の開発と人工改変（開発に伴う地形改変の調査）

以上について、班ごとにそれぞれ調査を実施した。

課題：25～30枚程度のレポートをまとめる。

◎内田

実施地：広島市およびその周辺地域

参加学生数：8名（男子8名）

テーマ：学生各自でテーマを設定し、現地調査を行う。

内容例：大竹市における犯罪発生地の分析、鉄道路線による沿線イメージの比較、「ひろしま西風新都」における購買行動、三原市「やっさ祭り」による地域振興、呉市における観光ボランティアガイドの実態、広島市内商店街の通行人調査、瀬戸内海島嶼に住む中学生の環境認知、福山市民の県民イメージ。

課題：各自設定したテーマに従って、現地で得たデータをもとに分析・考察を行う。



内田班：平和記念公園，原爆ドーム前にて

◎岡島

実施地：静岡市および周辺地域

参加学生数：7名（男子4名，女子3名）

テーマ：主として歴史地理学・交通地理学に関する地域調査

内容例：大井川流域における電源開発鉄道とその変遷，明治期における産業鉄道の地域的特質－静岡鉄道を事例に－，静岡における木漆産業の変遷，近代における静岡市の歴史的再編，岳南鉄道の現状と課題－利用者アンケートを通じて－，地方ローカル鉄道にみられる現状と課題－天竜浜名湖鉄道を事例として－，静岡県旧蒲原町における歴史的町並みの展開

課題：各自のテーマに従ってレポート作成



岡島班：駿府城下町と東海道の宿場について説明を聞く

◎磯谷

実施地：愛媛県大洲市とその周辺地域

参加学生数：11名（男子9名，女子2名）

テーマ：愛媛県北西部の生態地理

内容：愛媛県北西部でみられる動植物の生態地理について、各自が事前にテーマを設定して調査した。具体的に選ばれたテーマは、森林の分布と種構成，河辺草原の分布と組成，イネ科植物の生育状況，中～大型哺乳動物の生態地理と農作物被害，サギ類の生態地理，および川の水生動物の生態地理であった。

課題：図表を含めてA4版30枚程度のレポートにまとめる。



磯谷班：河原にて調査の準備中！

◎加藤

実施地：大分県臼杵市とその周辺

参加学生数：11名（男子11名）

テーマ：各自が設定したテーマにもとづいた現地調査・地域調査を行う

内容例：中心商店街の衰退とその要因，中心商店街における振興策としての町並み整備，臼杵市における味噌・醤油製造業の現状，臼杵市とその周辺における運輸業の存立基盤，臼杵市における宿泊業の現状。

課題：各自のテーマについて、『卒業論文の手引き』にもとづき，レポートをまとめる。



加藤班：臼杵駅前（磨崖仏レプリカ前）にて

◎宮地

実施地：愛媛県今治市

参加学生数：11名（男子6名，女子5名）

テーマ：農山村における地域問題，地域づくり調査

- 内容：①有機農業班（有機農業，減農薬・減化学肥料栽培の普及とその経営効果に関する考察）
②学校給食班（地場産食材を活用した学校給食の地域的意義に関する考察）
③特産品班（今治タオルのブランド化へ向けた取り組みと産地存続へ向けた課題の考察）
④観光班（しまなみ海道開通にともなう新たな観光事業の展開と地域振興効果に関する考察）

課題：班ごとの調査結果を、『卒業論文の手引き』を参照しながらA4版25枚以上（図表含む）のレポートにまとめる。



宮地班：最終ミーティング後に「バリィさん」人形とともに

【国土舘大学地理学会開催報告】

◎総会・講演会（6月9日）

今年の国土舘大学地理学会総会は，2012年6月9日（土）に開催されました。例年と同様，学生役員によって総会が運営されました。2012年度事業として，巡検補助費がこれまで以上に拡充されました。積極的に野外で学ぶ機会が増えることが望まれます。その後，長沼佐枝先生（東京学芸大学）による講演会が開催されました。『人口高齢化にともなう住宅地空間の変質と維持』と題したご講演では，（大）都市郊外で急速に進展している高齢化とその背景が説かれ，住宅地の持続性に関わる課題が論じられました。



写真1 学生役員による総会の運営



写真2 長沼先生による講演会の様子

秋田県の内陸部を縦断しました！

磯谷達宏

本年度夏季の国土舘大学地理学会巡検は、秋田県の内陸部を縦断する魅力的なコースにて2泊3日の日程で行われ、無事に終了した。参加学生は2年生3名と3年生3名の計6名で、引率教員は内田先生と磯谷の2名であった。日程とコースの概要は次のとおりである。9月7日（金）の昼過ぎに奥羽本線飯詰駅（大曲駅から一つ南の駅）に集合し、徒歩で六郷の歴史的町並（旧街道沿いの社寺、湧水群、酒蔵などを含む）を見学。飯詰駅に戻って列車で移動し、角館にて街並みと祭りを見学して市内の旅館に宿泊。8日（土）は再び角館の祭りと街並み（旧武家屋敷や町屋など）を昼過ぎまで見学。その後、2両編成の秋田内陸縦貫鉄道で北上し、鉾山跡とマタギの里の阿仁合（あにあい）で途中下車して2時間ほど見学。再び秋田内陸縦貫鉄道を北上して終点の鷹ノ巣駅で下車、その後は大館経由で花輪線に乗り、夕暮れの鹿角花輪駅で下車して駅前のビジネスホテルに宿泊した。翌9日（日）の午前中は、雨模様の中、鹿角花輪駅前からバスに乗り、かつて鉾山でにぎわった小坂の町まで移動して街並み（旧鉾山事務所や芝居小屋など）を見学。再びバスで鹿角花輪駅前に戻って昼過ぎに解散となった。

今回の巡検のキーワードを挙げると、秋田県内陸部の南北断面、歴史的景観と地域振興、植生景観の活用、旧鉾山の町並、鉄道網とくにローカル線の実態、盆地と扇状地の地形、イザベラバードが見た世界などである。実際に、米どころの内陸盆地（複合扇状地）の豊かさ（大曲、角館、大館など）、かつて狩猟や鉾山で栄えた山間の町（阿仁合や小坂）、歴史的景観の保全の様子（とくに角館、小坂、六郷）、などを見ることによって、「秋田内陸域の地理」についての理解を深めることができた。個人的に特に印象的だったのは、角館の歴史的町並みにおいて、シダレザクラと並んで街中に点在するモミの大木が個性的なランドスケープをつくっていることであった。まさに「縦の木は残った」の世界である。また、小坂の旧鉾山事務所前のメインストリートでは、外来種であるアカシアの大木が、「文明開化」の趣がある特徴的な景観を演出していた。六郷の歴史的町並みにおいても、在来種であるスギやケヤキの大木が、景観創りにうまく活かされていた。

今回の巡検はまた、「楽しい鉄ちゃんの旅」でもあった。今まで地図や時刻表でしか知らなかったいろいろな列車や線路や駅舎を楽しむことができたが、なかでもハイライトは秋田内陸縦貫鉄道の完全乗車であった。線路脇に創られた「田んぼアート」など、ローカル線を盛り上げるためのさまざまな試みを体感することもできた。参加学生も、「筋金入り」もしくは「にわか」の鉄ちゃんとして楽しんでいて、筆者もかつての「撮り鉄、車両好き」の血が騒ぎ、なかなか乗れない秋田内陸縦貫線の撮影を楽しんだ。

末筆ながら、今回の巡検は諸般のアレンジにおいて、大曲出身の3年生高橋幸平君の尽力に依るところが大きかった。参加者を代表して謝意を表したい。今回、土地感のある地元出身者が活躍してくれると良い巡検が実施できることが判明したので、今後の巡検を企画するにあたって、ぜひ参考にしてほしい。



写真1 角館のお祭りと街並み（左端はモミの大木）



写真2 秋田内陸縦貫鉄道の阿仁合駅で途中下車



写真3 鉾山で栄えた阿仁合の町を見学



写真4 秋田内陸縦貫鉄道の車両前方を占拠した参加者たち

◎研究発表会・講演会（12月22日）

恒例の地理学野外実習Cの調査結果を基にした研究発表会が、2012年12月22日（土）に開催されました。今年の発表者と演題は次の通りでした。

- ・正田一真・後野寛子・渡邊 智：愛媛県今治市における地場産食材を使用した学校給食の意義
- ・丸田洋樹：沼田市におけるヒートアイランド現象
- ・高橋幸平：広島県大竹市の犯罪発生分析
- ・川村尚子：南会津町だいくらスキー場開発の背景と土地改変
- ・浪床祐貴：大井川流域における電源開発鉄道の形成とその変遷
- ・添野真広：愛媛県大洲市における中・大型哺乳類の生息状況と被害について
- ・岩間太一：大分県臼杵市の醤油・味噌醸造業の現状

研究発表会の後、国士舘大学で「日本の土壌環境」をご担当いただいている三浦英樹先生（国立極地研究所）に『極地のフィールドワークー第四紀の南極氷床変動の謎を解くー』と題したご講演をいただきました。ご講演では、北半球における氷床変動がかなり明らかになっている一方で、未だ謎につつまれた第四紀における南極氷床の変動について、10数回にわたる南極でのフィールドワークから得られた結果を基にお話しされました。とくに印象的であったのは、もともと土壌学を学ばれた先生が、その研究手法として一般的である「穴掘り」を援用し、新たな知見を得たというお話でした。徹底したフィールドワークから新知見を得るという姿勢は、地理学を学ぶ私たちが倣うものであると感じました。また豊富にお見せいただいた調査時における写真の数々は、南極の自然環境や南極で観測、調査活動に取り組まれる日本人の皆さんと苦労や熱意を感じさせていただけるものでした。地球環境問題も、こうした地道な研究活動の結果から明らかになっているものであることを改めて学ばせていただきました。



写真1 研究発表会の様子



写真2 三浦先生による講演会

【卒業論文公開口頭試験について】

地理学教室では、卒業論文の審査が公平になされるよう各々の論文を2名の教員が閲読し、さらに公開口頭試験の結果を加味して合否を決めています。今年度も下記の通り、卒業論文の口頭試験が行われ、試験の結果から卒論の評点が決まります。試験は、持ち時間9分の口頭発表とそれに続く質疑応答です。発表者はあらかじめ卒論の要旨、図表などをまとめたレジメを用意し、出席者に配布できるよう準備してください。また、質疑応答の際に必要な卒業論文のコピー、その他卒論作成に使用した資料や参考文献のコピーなどは、必ず持参してください（公開口頭試験の際に提示を求められる場合があります）。これらは卒論の合否が決まるまで処分しないこと。

就職が決まり、試験当日に社内研修などが予定されている4年生は、就職予定先に事情を説明し、研修欠席の手続きを済ませておくようにしてください。

なお評価の結果、優秀な卒論2編は、全国地理学専攻卒論発表大会（2013年3月中旬・東京学芸大学）で発表してもらうこととなります。発表者は、2月8日中に決定し、すぐに通知します。

日 時：2013年2月6日（水）9：30～、7日（木）・8日（金）9：20～
場 所：世田谷校舎 10号館 2階 10204 教室（階段教室）

注意事項（4年生はよく読んでおくこと）：

※ 試験時間は、1人18分（発表9分、質疑応答9分）である。発表者は発表用原稿を必ず用意し、あらかじめ発表の練習をしておくこと。発表の内容はもちろん、発表の手際や発表の態度なども審査の対象となる。なお、発表時は予鈴7分、本鈴9分の合図があります。

※ 発表に際しては、かならず以下の要領でレジメを用意しておくこと。レジメはワープロによって作成することが望ましい。

1. レジメは、論文題目、氏名、論文の要旨（目的・方法・結果を書く。字数が多くなりすぎないように、計800字程度を目安にするとよい）、説明に使用する図表によって構成する。
2. レジメの枚数は、A3サイズで2枚横書き（図表を含む）とし、各自40部ずつ用意する（自費でコピー：図表がカラーでないと判別しにくい場合はカラーコピーをするか、口頭試験用に図表を白黒で書き直すこと）。
3. レジメは、発表者交代の合間に次の発表者が配るものとする。その際、まず教員に配ること。

※ 発表では、PCプロジェクターをはじめスライドやOHPも使用できる。使用希望者は事前に専攻主任（内田）またはゼミ担当教員に申し出ること。なお、PCプロジェクターを使う場合、原則としてノートPCは各自で用意すること。また、ディスプレイの設定等が必要なため、PCのマニュアルをよく読んで設定方法を確認し、発表までに動作確認等しておくこと。PCプロジェクター使用の場合、接続替え等に時間を取られすぎないように、前後の発表の人の使用を確認し、機器を一時的に借りる（同じPCを使用する）などの工夫も心掛けること。

※ 地域調査士の資格を希望する学生（日程表の「地域」に○が付いている学生）は、各自で事前に申請用紙を日本地理学会HP（<http://ajg-certi.jp/gr/becomes/download.html>）よりダウンロード・印刷し、その1枚目（申請書1）に必要な事項（顔写真も）をすべて記入して用意しておくこと。必要な事項を記入した申請書1を口頭試験日程期間中に提出してもらい、副査が記名・押印したのち一括して返却する。この機会をのがすと「地域調査士認定委員会が指名する者の認定」が面倒なことになるので、卒業予定者は必ずこの機会に行うこと。

※ **3年生は卒論作成の参考のため、また来年の口頭試験のためにも、全員出席し、大半の発表を聞くようにすること。1, 2年生もできるかぎり1日以上出席すること。**2年生にとっては3年以降の専門分野（ゼミ）の選択する上でもっとも参考になる行事なので、できる限り多くの発表を聞くことが自分のためにもなります。

【2012年度卒業論文公開口頭試験日程】

番号	氏名	題目	主査	副査	GIS	地域
2月6日(水) 9:30~10:30 <進行:宮地>						
2	宮島 卓也	新潟県における公共交通の利用促進と車社会の抑制 -新潟市を中心として-	岡島	内田		
3	唐 悦レイ	日本語学校留学生寮の居住空間と問題点 -ジェンダーの視点から-	内田	岡島		
4	小川 陽介	農村地域のバス交通の活性化への取り組みと課題 -千葉県南房総市を事例として-	岡島	野口		○
10:50~12:05 <進行:宮地>						
5	金坂 伊摩里	千葉県西印旛沼における水草群落の分布と生育状況	磯谷	長谷川		○
6	林 大悟	関東山地中部におけるニホンジカによる野生植物の採食 状況 -シカの出現時期の違いに着目して-	磯谷	長谷川	○	○
8	趙 志龍	中国遼寧省瀋陽市における50年間の気温変化特徴につ いて	野口	長谷川		
10	大橋 亮太	ファストフード店の立地展開 -松屋, モスバーガーを中心に-	加藤	内田		
12:50~15:40 <進行:磯谷>						
11	曲 涛	東京のヒートアイランド現象 -夏, 冬における都心と郊外の比較-	野口	長谷川		
12	栗山 和歩	歴史的町並みの保全と地域問題 -茨城県土浦市を事例に-	岡島	野口		
13	山本 良一	湾奥部で見られる土地利用変化の特徴について -東北の津波被害地を例に-	長谷川	磯谷	○	○
18	廣木 沙織	群馬県の地名イメージにみる上毛かるたの影響	内田	岡島		○
19	関根 沙友里	小川和紙産業の衰退と産地の現状	加藤	宮地		
20	赤谷 騎之	荒川中下流域の低茎草原における訪花昆虫群集の実態と それに及ぼす周辺緑地の影響	磯谷	長谷川		○
21	青柳 亮	羽田空港における空港アクセスの現状と変化について -空港バスを中心に-	岡島	内田		
24	萩原 亮	世田谷におけるセブンイレブンの立地地点と取扱商品・ 店舗構造との関係	加藤	岡島		
25	志村 衛	銚子市高神地区におけるキャベツ産地の維持メカニズム	宮地	加藤	○	○
15:50~18:25 <進行:野口>						
28	関 正道	東京都杉並区におけるホンダヌキをはじめとする 中型哺乳類の分布と生態	磯谷	長谷川		
29	江川 祐樹	東日本大震災で起きた津波被害 -メッシュマップによる被害状況の比較-	長谷川	磯谷		○
31	上野 公佑	茨城県県南地区における自動車ディーラーの立地展開	加藤	内田		
32	山田 晃久	交通条件の変化による草津温泉の変容	岡島	内田		
33	友弘 俊一	地方鉄道における利用促進活動の展開と利用者の評価 -いすみ鉄道を事例として-	岡島	加藤	○	○
34	小松 女鹿美	日本・群馬県における花卉産業の展開	加藤	宮地		
35	竹中 勇祐	日光街道における建築物スカイライン及び 垂直的空間利用の特徴	加藤	内田	○	○
36	鈴木 一明	足立区旧日光街道沿いの商店街における変容と その場所による差違	加藤	宮地	○	○

2月7日(木) 9:20~12:10 <進行:岡島>

37	浅見 満里奈	三浦半島南部におけるタフォニの分布と岩質の関係性 -特に城ヶ島における形状の差異を例に-	長谷川	磯谷	○
39	渡辺 基	日本における冬型降水がもたらす地域特性 -北海道北部の雨陰現象について-	野口	長谷川	
40	文 鎮媛	東京都に立地するアメダス地点の季節別, 天候別, 平・休日別の気温日変化	野口	長谷川	
41	三上 拓也	プロサッカークラブにおける地域活動とその方向性 -横浜Fマリノスクラブサポートショップを例に-	加藤	内田	
42	坪内 有沙	阪神・淡路大震災における復興まちづくりのプロセスと 取り組み -神戸市灘区六甲道駅周辺を事例として-	宮地	岡島	
43	高松 みなみ	農業生産法人の後継者問題に対する取り組みと現状 -富山県砺波市を事例に-	宮地	加藤	
44	山本 朗子	東日本大震災の被災地におけるボランティアセクターの 活動実態と地域的課題 -宮城県気仙沼市・石巻市・山元町を事例に-	宮地	内田	
46	小林 絵梨	石垣島アンパル千潟における堆積物の分布傾向 -ボーリングコアの分析結果から見た泥炭質砂の流入-	長谷川	磯谷	○
47	吉本 雄貴	神奈川県鎌倉市七里ヶ浜海岸における ビーチカスプの形状と変化	長谷川	磯谷	○

13:00~15:35 <進行:加藤>

48	飯山 純平	福島盆地における松川・荒川扇状地の地下構造 -下流域におけるボーリングデータの解析-	長谷川	野口	○
49	青木 俊	生産調整下での新規需要米の取り組み実態 -栃木県足利市を事例に-	宮地	岡島	
50	高崎 真梨	都市公園の変遷と人口移動の関係性について -東京都を事例に-	宮地	岡島	
51	高橋 孝介	東京スカイツリー誕生に伴う 東京タワーのイメージの変化	内田	岡島	
52	斎藤 肇	河食ポットホール分布と形状について -荒川上流部・長瀬で見られるポットホールを例に-	長谷川	野口	○
53	古川 雄太	大田区の商店街・京急線駅前商店街の現状と課題	加藤	内田	
54	塚木 達彦	島根県大田市における哺乳動物による農作物被害の現状 とその変遷 -とくに富山町神原を中心に-	磯谷	宮地	
56	辻 智宏	神奈川県山北町丹沢湖周辺におけるトビの分布と 生息環境について	磯谷	内田	

15:45~18:20 <進行:岡島>

57	興松 智彰	石垣島白保サンゴ礁の変化 -フタマタクムイにおける五時期の変化-	長谷川	野口	○
59	川崎 遼平	鉄道の上下分離とそれに伴う変容 -伊賀市・伊賀鉄道事例に-	岡島	内田	○
62	李 芳	キムチの日本家庭への受容過程について	内田	加藤	
64	田中 美穂	総合ディスカウントストアの立地展開と そこから読み取れる経営戦略	加藤	内田	
66	荒山 慎介	千葉県鋸南町付近におけるイノシシの農作物被害と その対策の現状	磯谷	宮地	
67	服部 有沙	医療サービスの地域格差の実態 -群馬県神流川流域の自治体を事例として-	宮地	加藤	

68	戸部 友梨香	津波災害における避難場所・避難ルートの安全性評価 －南房総市を例に－	長谷川	磯谷	○	○
69	大塚 洋二郎	凍結融解に伴う砂礫地の斜面物質移動 －室内実験に基づいた考察－	長谷川	野口		○

2月8日(水) 9:20~12:10 <進行:長谷川>

72	鈴木 雄也	近世における城下町の土地利用の変化 －千葉県佐倉を事例に－	岡島	内田		
73	中川 智美	一般廃棄物の排出実態と循環型社会に向けたリサイクル の取り組み ー東京都世田谷区を事例にー	宮地	加藤		
74	坂井 大樹	千葉県香取市佐原の歴史的な町並みの特性	岡島	内田		
75	上原 悠輔	中山間地域における桑特産品化の展開とその地域的意義 －島根県桜江町桑茶生産組合の取り組みを事例として－	宮地	加藤	○	○
76	川畑 潤	荒川中流域における一年生草本群落の分布と種組成	磯谷	内田		
79	富澤 勇太	香川県讃岐地域における夏季の海陸風について	野口	磯谷		○
85	中村 友哉	都市化に伴う水害被災地の形成	岡島	野口		
89	吉松 勇貴	第3セクター鉄道の現状と課題 －甘木鉄道を事例に－	岡島	宮地		
97	関谷 祐介	都市近郊に残存するコナラ二次林の組成と構造 －とくに鳥被食散布型樹種に着目して－	磯谷	野口		

13:00~15:50 <進行:内田>

100	杉山 翔吾	伊豆半島西岸地域にみられる海陸風の特徴について －松崎を例に－	野口	磯谷		
101	小友 健太郎	東京都小平市における都市農業経営の実態	宮地	野口		
102	高橋 美紗	山形県最上町における観光の実態	加藤	宮地		
108	土橋 聡史	千葉県の公立小中学校給食における地場産物利用の 実態	宮地	加藤		
109	石山 駿介	新潟県上越地方における夜間の高温・昇温現象の特性に ついて ー糸魚川を事例にー	野口	磯谷		
110	山田 恒樹	近江盆地における降雪特性	野口	磯谷		
111	古畑 貴澄	糸魚川駅前商店街の現状	加藤	宮地		
113	佐藤 優太	近世川越城下町の歴史的変遷と地域構造	岡島	野口		
116	古谷 結花	千葉県作田川流域における土地利用変化 －水害との関係について－	長谷川	野口		

注. GIS: GIS 学術士取得希望者, 地域: 地域調査士取得希望者



近年の卒業論文口頭試験の様子 (国士舘大学地理学教室 HP より転載)

【国士舘大学地理学会費の納入について】

下記に掲げる者は、国士舘大学地理学会費（4年分・12,000円）が未納となっていますので、至急支払ってください。地理学教室では4年分の会費を納めていない学生については、卒業を認めておりません。いずれ払うこととなりますので、早めに納入することを勧めます。会費未納者は、必ず1月末日までに郵便振替で会費を納入すること。期日内に納入しなかった者については、保護者宛てに督促状を送ります。

振替用紙は郵便局にありますので、「口座番号：00150-7-161762，加入者名：国士舘大学地理学会」および通信欄に自分の学年と氏名を記入のうえ、所定の金額を窓口またはATMで振り込んでください（ATMでの振込のほうが手数料は安くなります）。

Web 版では
非公開にしています

注：疑問・質問等は会計担当の宮地まで連絡して下さい。
なお、上記は2012年12月26日現在の未納者です。

重要事項！必ず読むこと！

研究室、図書館から借りだしている書籍・備品は口頭試験の前（2月初旬）までに必ず返却して下さい。4年生で未返却の者は、卒業資格を満たしていないとみなします。